



繪本梅花氷裂

七

於  
180  
7



13  
180  
7





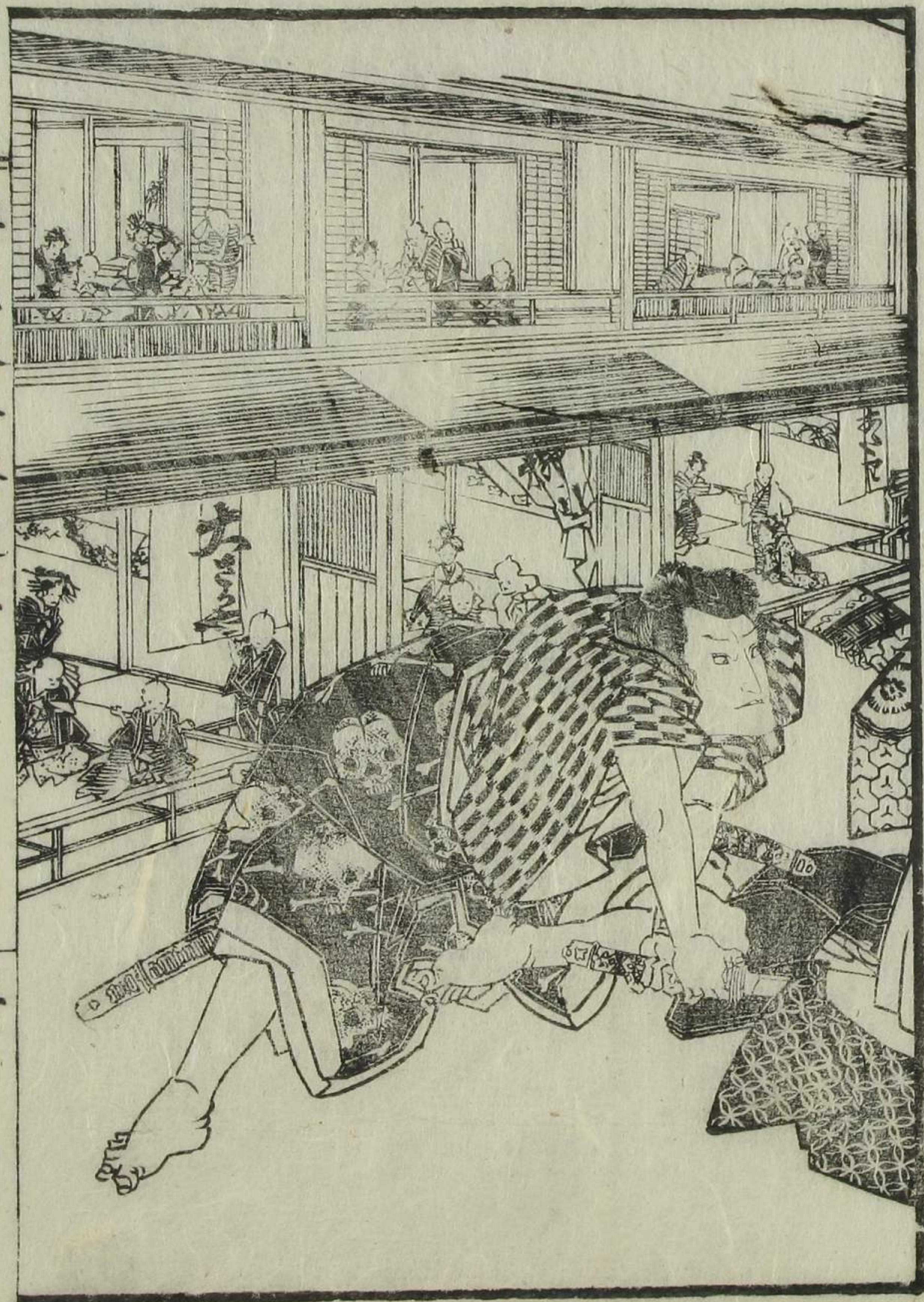


世より房総の間に探しけりども、意なきものも、かぐつと、隣りひれ  
 一、一度、子四、湯は逢ひて、相送りて、其上より、高松、ゆきも、探さ  
 せりと、取返し、ける、後中、袖々、不圖、病ひよ、かゝる、さ、ゆ、歩、も、自由、さ  
 ざ、と、け、ま、一、先、萬、飾、あ、る、源、ま、湯、が、方、つ、つ、と、一、夜、ひ、静、ま、る、養、生  
 ま、づ、一、と、く、其、身、の、子、四、湯、が、方、來、り、て、暫、く、心、を、と、ま、せ、と、め、名、を  
 権、は、と、改、め、て、お、び、く、よ、養、文、本、が、り、あ、り、給、ま、り、け、る、が、お、き、者、の  
 ろ、ら、ひ、と、く、不、圖、彼、の、心、案、と、別、際、が、原、來、は、は、る、の、権、は、が、る、み、家  
 謙、筋、と、い、ひ、給、は、美、藤、ま、の、流、振、は、送、り、憎、く、ず、勤、ま、る、ま、ま、  
 怒、り、ける、用、心、も、ま、ま、こ、の、心、案、が、る、香、の、迷、ひ、と、浦、島、が、許、は、通、へ、ど、も  
 り、も、困、心、を、強、固、管、待、ど、い、つ、つ、の、意、の、意、地、後、の、深、ま、の、女

ね、あ、ら、て、百、夜、と、も、と、通、ひ、多、折、り、も、秋、の、最、中、と、て、廓、ハ、例  
 の、俄、秘、り、物、を、催、せ、と、て、具、賑、ひ、い、ん、と、ま、く、寄、伎、封、同、歌、  
 お、の、の、趣、向、小、皆、着、官、房、の、奉、腹、且、感、じ、且、後、ひ、動、搖、め、折  
 から、それ、喧、嘩、よ、こ、の、程、を、何、と、看、集、の、人、く、東、西、に、走、り、  
 南、山、を、を、遠、い、上、を、下、と、務、た、な、ら、く、右、往、左、往、を、散、乱、  
 する、更、彼、搦、楯、柄、組、の、溢、ま、り、の、も、ど、り、れ、美、少、年、の、胸、  
 ぐ、ら、次、列、捕、へ、り、立、あ、る、ま、も、ゆ、年、ハ、一、向、よ、手、を、さ、け、く、控、ま、と、い  
 ども、原、本、を、頼、の、斐、さ、れ、ば、再、も、も、か、け、以、異、口、同、音、を、罵、り、  
 や、う、ハ、折、我、を、奈、何、の、者、と、さ、り、汝、ハ、此、里、之、未、宮、集、ま、り、する  
 嬰、児、も、も、後、と、さ、る、の、の、り、と、呼、ぶ、も、聞、つ、ん、後、搦、楯、組、の、閑

心が羨望の者なり。刃をば汝も二腰をたまたまらば武士なるべ  
 るどと我を敵刀の下やと汝が刀の當りたるは。拵扱もな  
 けりるハハ礼至極なまば其處にハ救一難く魁首同心反  
 の面前まきく引れく魁首の羞面ハ何れと。さきどりほきり  
 ぬく初まきそ無念うさう多勢にを勢。後方うさそ刀ある拵  
 くら。と四兵衛ハ例も曲輪入りぬむ時分何心き来かんに  
 喧嘩とけりく扱ハ又例の棕櫚柄組の業ヲ業うんと。群集は  
 押かくと刀をば置けり拵ハ同心のる身ハ為ぬ捕られ。拵難の併と  
 刃をなれ走りあて拵ハ物を取る漢の小腕捨あけ傍に僅と拵付  
 是ハ残の奴等。扱連く切て掛る。成續たす刀。は取散た。打拵付

権ハを後ハ田ハまきうハ地能とそ見へよける。這時困ハ揚屋の拵  
 上ハ酒汲くあけりける。拵とばきり飛ぶ。来り物。言はば。子四兵衛  
 又寺でうるに。ぬる。と。丁と。交。誰人。あや。思ひ。ハ。回ハ。豫て。見  
 識る。棕櫚柄組の魁首とや。困。どの。と。見。あ。す。何。ゆ。あ。か。る。狼。藉  
 と言。せ。も。あ。入。む。聞。心。ハ。呵。と。冷。笑。ハ。汝。ハ。梅。の。子。四。兵。衛。と。や。ん。彈。名  
 なる。自。痴。よ。る。素。町。人。の。分。際。あ。て。我。輩。と。同。く。伎。客。う。ん。ど。の。の。社  
 最。片。後。い。け。は。拵。も。有。ら。ば。一。刀。の。下。は。家。中。の。鬼。と。さ。ん。と。思。ひ。ま  
 時。と。と。来。ま。は。ま。の。童。の。我。が。子。分。の。者。ハ。對。し。不。れ。と。ま。い。り。し。て。是。ハ  
 夫。を。さ。も。て。言。徳。一。折。檻。を。を。汝。ま。こ。我。美。す。出。と。鄭。教。ら。一。聲。が。肩  
 持。顔。ま。う。と。可。笑。け。ま。い。と。く。梅。の。幹。の。ろ。と。我。一。刀。は。落。花。未。盡。



松竹春之巻五十二

うまげとていひと誇るふ罵らるゝ元やすたはまらへ切はむぞと四  
 邊も秘術とて及一上二下盡く実々公を在とち〜といひのみあ折  
 から三浦面の山はさへけ換子と承元があ〜せよゆもゆる〜す速がく  
 来〜見まが困心とふ四邊が〜練の太刀先〜公の物  
 まで切結ぶ真の目バ雑戸ホ只あされよあま〜経方〜侍  
 も寄らぬす各指あ切木を挿入〜遠巻志〜足物を出はる道  
 体と見る〜巴が〜けり桐襦と〜脱〜合〜二人  
 白刃〜とさけ我身と〜せよ〜すの兩人経方〜顔  
 足合〜下は〜刀と刀の胸も〜け場の宜〜四邊  
 猶も〜一其心退る〜山系〜困心〜左〜改

女が抑留と幸ひは終らぬ〜  
 何〜と罵らるゝと四邊〜と欲ま〜山系〜男を  
 借ま〜白刃の上は膝とあけ〜其刃は過もあらん夏を〜  
 古戦〜の〜とさす〜白刃と〜時時〜あつ〜  
 ハ赤微笑つ〜二人の向ひ〜四邊〜困心〜あ〜  
 氣遣眼あ〜あもあ〜喧嘩〜時の表裏と〜  
 あ〜余と失ふと使客と〜あひ〜  
 使ハ妻ふ預け〜最他〜  
 よう〜ト〜  
 志〜

梅花春水卷之二

五











兼ハ其ノ意ヲ以テ大ニ變リテ高ニ病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 外一けしバ主人夫婦ハ何れも一と病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 あらん意ニシテ東角病の由保費とて其の病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 辺り風氣とて其の病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 新造先とつげもたぐ其全疾と待く因分が方へ病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 ハ因分も詮解するも病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 ハ病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 於て山家ハけしバ其病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 先と使へて予四書分が許入権ハと其の文と病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 も山家ノ意中とて其の病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其

中積つ物語とて一とと。そのころは権ハも其の病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 但し其の病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 案内ハ山家ノ方より病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 の別荘にゆく歩みとて其の病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 其の病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 予四書分が病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 て病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其  
 類ハ其の病氣ノ病ニシテ一入引テのりて其

山家集卷之二

二





